

技術提案募集：ドローン等を活用した河道内の堆積状況、洗堀状況等のデータ取得

求める技術	概要	
ドローン等を活用した河道内の堆積状況、洗堀状況等のデータ取得	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>問題点</p>	<p>大阪府では、5年に1度、現地測量による府管理河川の土砂堆積や洗堀状況の調査を実施しており、堆積傾向にある区間、河床低下傾向にある区間、局所的な洗堀が点在する区間等を把握したうえで、効率的、効果的な河道管理に努めている。</p>
	<p>ニーズ (課題・条件等)</p>	<p>調査頻度が5年に1度であることから、洪水等の度に変化する河道の日常的な管理のために活用することが難しく、少なくとも年1回程度の頻度で容易に河道状況を把握する技術を求めるもの。</p> <p>【求める技術】 ドローン等を活用して、堆積状況や水面下の洗堀状況をデータとして取得し蓄積することで、日常的な維持管理に資するほか、経年変化の把握にも活用可能な技術</p> <p>【条件】 堆積状況のほか、洗堀等、水面下の情報も取得可能なもの。 職員が操作できる画像解析ソフト。</p>